

日野市立教育センター所報

教育センターだより

第13号 平成19年11月22日



調査研究事業中間報告会

日野市立教育センター

〒 191-0042

住所 日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分
～午後5時15分



教育センターの研究の重要性

日野市教育委員会
教育委員長 田口 直

《一年を考える人は花を育てよ。十年を考える人は木を育てよ。百年を考える人は人を育てよ。》と申します。大きく変化する教育環境の中ですが、私たちは子どもたちの成長に、花の美しさ、木の健やかさを感じながら、人を育てているということを常に心に刻んでいなければならない、と考えています。

国では現在、変化する教育環境の中で、教育基本法や学校教育法の改正を行い、「生きる力」をはぐくむという学習指導要領の理念を実現することで、教育をめぐる諸問題に対応していこうとしています。その具体的な手だてを確立する観点から学習指導要領の改訂作業が行われているようです。

日野市では、平成16年に教育センターが設立されました。以来、本市における教育課題の研究や市民の期待に応える活動の拠点 THINK TANK となっています。

本年度の調査研究においては10月5日に日野市における教育課題の中から3つの課題「教育課程（カリキュラム）」「郷土教育推進」「ICTの活用」を取り上げ、その調査研究の中間発表を行い、進捗状況や今後の課題について報告がありました。

◎「教育課程（カリキュラム）」の研究では、幼稚園・小学校・中学校のなめらかな接続をめざし、今年度は国語力・読解力を取り上げて研究を進めています。

◎「郷土教育推進」の研究では、日野市内の学校に郷土教育を根づかせるために、郷土教材の収集・開発を行っています。

◎「ICTの活用」の研究では、活用モデル校や活用推進校において、活用実践を進め、児童・生徒の学力向上を進めています。

これらの研究は、2月の本発表に向けてさらに研究を深め、日野市の教育の方向性を明らかにしていくことと思います。

教育センターが担う役割のひとつは、教員の資質向上のための教員研修の拠点になることです。多くの所員が指導にあたっています。特に、市立小・中学校では若手教員の占める割合が高くなっており、その育成はどの学校でも、課題としているところです。センターでは、若手教員の指導も行っており、自分の授業を振り返ることで、教員一人一人の個性を伸ばし、課題の解決を図っています。大いに期待したいと思います。

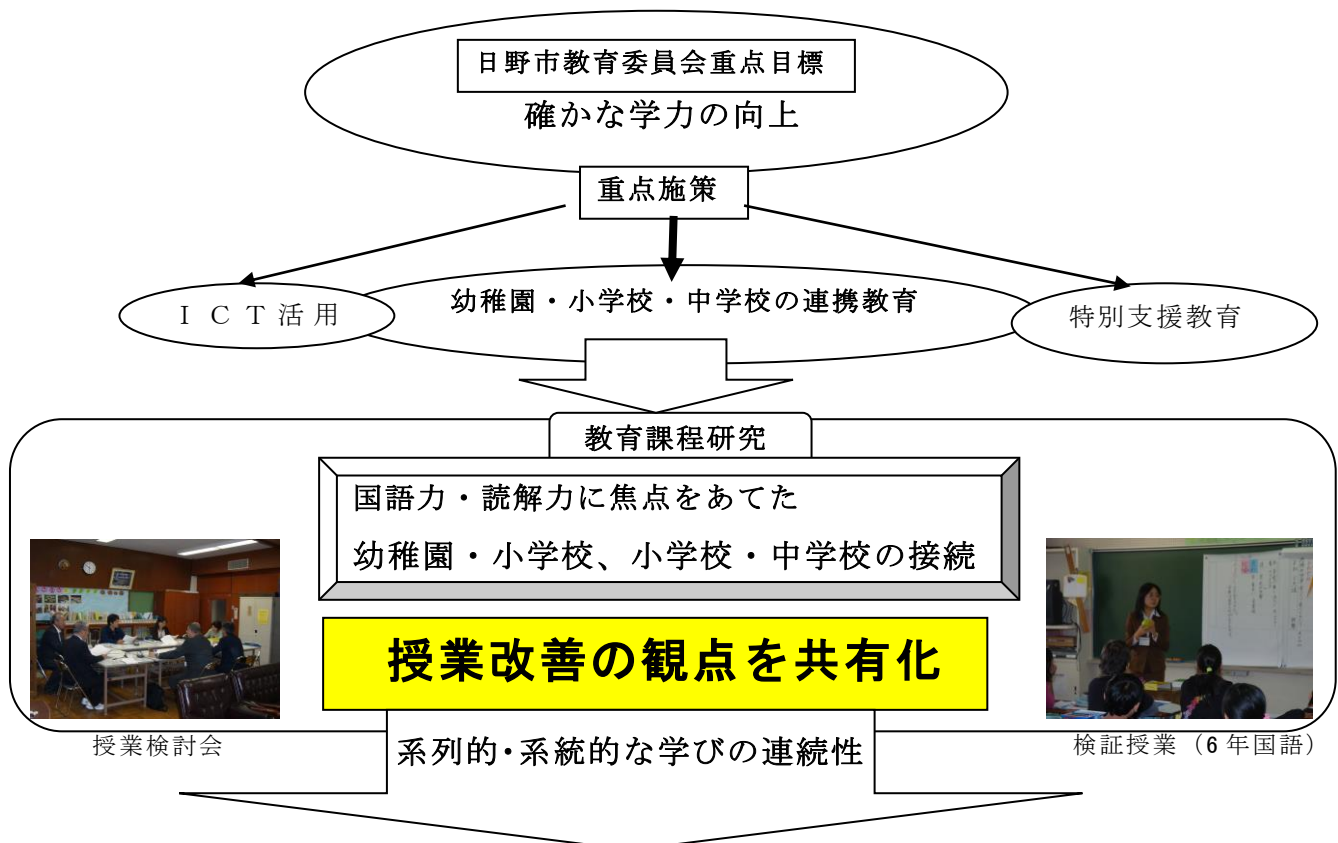
児童・生徒の健全育成の観点からは、教育相談・適応指導教室において、児童・生徒一人一人の悩みや課題に応じた活動があります。教育相談室は、家庭教育について悩みを抱える市民の心のよりどころとなっています。また、学校生活への適応が難しい児童・生徒のための「わかば教室」も個に応じた教育を施し、学校への復帰を目指した指導を行っています。

ひのっ子のすこやかな成長のため、これからも教育センターで日野市の教育課題について研究・実践を深めていただきたいと存じます。

調査研究部の基礎調査研究係（教育課程の研究）、教育経営係（ICT の活用に関する研究）、教科等教育係（ひのっつきょういく21開発委員会研究）ふるさと教育係（郷土教育推進研究）では、中間報告会を終え、市内小中学校・学識経験者・地域の皆様方・関係諸機関等のご協力を得て、研究も佳境に入ってきております。現在の調査研究の様子を以下、お知らせ致します。

1. 教育課程(カリキュラム)研究

基礎調査研究係



1. 豊かな言語文化をつくり出す観点を幼・小・中で共有化する
2. 「本当の読解力」の育成を図る指導の観点を幼・小・中で共有化する

1. 豊かな言語文化をつくり出す観点を幼・小・中で共有化する

教師自身が子どもたちの「言葉を拾い」、「言葉を広げ」、「言葉を整理していく」などの教師自身の言語認識力・言語感知力の向上を目指す営みを、また、伝統的言語文化を継承し、多様な読書活動の推進する営みを共有化すれば幼・小・中の学びが連続し、学力の向上が期待できます。

2. 「本当の読解力」の育成を図る指導の観点を幼・小・中で共有化する

(1) 従来の授業の課題を明確にする

経済協力開発機構（OECD）の「国際学習到達度調査（PISA）」や全国学力テストでも明らかになった読解力・表現力の不足は、今までの授業のあり方に課題があったと考えられます。従来の国語科授業について小・中で整理していくことが「本当の読解力」の育成の前提となります。

(2) 授業改善の課題認識を共有化する

- ① 何らかの意味で対立する複数の考えを提示し、
 - ② 自分は、そのいずれの考えをよしとするのか、
 - ③ その理由、或いは、根拠は何かについて自分の考えを説明する
- といった授業づくりを検討しています。

2. ICT 活用に関する研究—ICT 活用研究委員会— 教育経営係

全ては日野市の ICT 活用教育向上のために！

環境策定部会

・中学校全校 ICT 環境が整備されました。さらに小学校では、新しいコンテンツ導入 (study21plus)、IP 電話が導入され、小、中共通では、事例で学ぶ Net モラル+e-セキュリティ、デイジーコラージュ10、さらに 図書室用ノート PC・図書室用プリンタも導入されました。今後、校務支援システム機能バージョンアップ、今後の ICT 環境整備の方策と計画作りにとりかかります。

ICT 活用推進部会

・セキュリティを守った正しい運用をしているか指導と監視の徹底に努めています。

教員研修部会

・夏季 ICT 活用研修会→教員の ICT 活用指導力の基準に基づいた研修会を実施

・今後の研修の重点→情報安全教育研修

❖講演会予定 平成19年11月29日(木) 18:30～20:30

演題 “学校と家庭で取り組む「メディアとのつきあい方学習」”

会場：日野市民会館大ホール

講師：独立行政法人メディア教育開発センター研究開発部

准教授 堀田龍也 先生



ICT 活用実践部会

ICT 活用教育モデル校・推進校は、充実した研究を積み重ね、発表に向けて取り組んでいます。

役
割

ICT 活用教育の充実に関する先導的・主導的・導的推進

校務支援システム活用に関する先導的・主導的推進

—モデル校・推進校の研究テーマと研究発表日—

◆日野市立大坂上中学校(モデル校) 発表:平成19年11月30日

「小・中連携による 子どもの力を伸ばすための指導法の工夫・改善」

◆日野市立平山中学校(モデル校) 発表:平成20年1月29日

「ICT を活用した魅力ある授業づくりをめざして」

◆日野市立日野第三中学校(モデル校) 発表:平成20年1月31日

「1.ICT 校務支援システムの活用実践」

「2. 生徒が理解を深める学習指導 —ICT を活用した授業改善」

◆日野市立日野第三小学校(モデル校) 発表:平成20年2月1日

「国語科における ICT の活用」

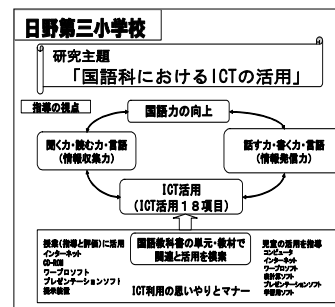
◇日野市立潤徳小学校(推進校) 発表:平成20年1月25日

「わかった！できた！を引き出す授業力の基礎・基本」

◇日野市立夢が丘小学校(推進校)

「自分の考えや思いを豊かに表現できる子の育成」

※教育センター調査研究事業発表会 (平成20年2月26日) ICT 活用実践部会発表！



研究発表 小・中学校へ提言・普及 小・中学校へ研究成果を還元

3. ひのっ子教育21開発委員会

教科等教育係

ひのっ子教育21開発委員会は、発足二年目を迎えました。この委員会は、日野市における学校教育の振興を図る為に設置されています。このため「開発委員は、日野市教育委員会の教育目標の達成を目指し幼児教育、教科・領域等の教育内容、教育方法、教材開発の実践的研究を行う。」と実施要項に規定されています。そこで、昨年度から「日本一のICT教育」を目指し、本格的に始まったICTを活用した教育活動の充実化を図るために下記の内容で進めています。

1. 平成19年度 ひのっ子教育21開発委員会 趣旨

教育用コンテンツの開発及びインターネット上にある教材研究に基づく授業実践

- ・ICTを活用した指導法の開発（小：コースウェア 中：Web）
- ・ICTを活用した教材の開発

この研究ため、信州大学教育学部附属教育実践総合センター教授東原義訓先生に指導を受けています。

2. 目的

- (1) 良質の教材（*study21）を活用した授業を行い、コンピュータから得られた評価を生かして算数指導力を高める。（小）
- (2) 学力向上のために、ICTを活用した教材を開発し、評価結果を生かす。（小）
- (3) 目標の達成状況の把握及び補充教材の作成を通して、個に応じた指導方法の向上を図る。（小）
- (4) インターネット上にある教科についての効果的な教材について吟味し、それを活用した授業実践を行う。（中）

3. 今年度の研究の歩み

〔小学校グループ〕

- (1) 教材開発ソフト「スタディーライター」を用いて算数科の各学年の教材の開発（昨年度に引いて継続：一単元の開発に数年を要することもある。）この教材は、児童一人一人が自分の学習速度で学習が進められることと、あわせて個々の学習状況・進捗等が、パソコンの先生機でデータとして瞬時に把握でき、活直ぐに指導に当たれるという優れた機能を備えています。

- (2) 既存の算数科教材等を活用した授業研究を進めると共に、開発委員がこのソフトを用いて理想的な授業が出来るように取り組んでおります。

〔中学校グループ〕

インターネット上のコンテンツを収集し、サイトを活用してリンク集データベースを作り上げる書籍等に収録された資料の把握と活用化に向けて収集整理を行っている。今後収集したサイトを活用した授業実践を進めていく。

〔その他・特色〕

委員相互の連絡や実践の報告、サイトの登録等について、この研究のために立ち上げてあるサイトを活用してリンク集データベースを作り上げる作業を重ねています。

（指導中、先生機データを確認し次の指導へ）



4. 子どもたちに伝えよう「ふるさと日野」の自然・歴史・文化

郷土教育推進研究委員会

郷土日野の自然・歴史・文化を理解する子ども 郷土日野の特色やよさを発信できる子ども地域の一員
として自覚と誇りをもち協力する子ども
そして、郷土日野の未来を思い描くことのできる力の育成を目標にして研究を続けています。

3年目になる本研究委員会の特徴は組織の構成員です。小学校・中学校・教育センター・郷土資料館・新選組のふるさと歴史館・学識経験者・教育委員会の協働による研究は、様々な視点にたった教材開発を進め、質の高い教材を効率よく作成する利点があり、画期的な取り組みと思います。

また、こうして開発した教材は、子どもたちの学習意欲と多様な学習活動、感動や学びの楽しさを生み出し、人の生き方を中心においた郷土教材の見方・学び方は信頼と感謝の心を育んでいます。

19年度末作成する指導事例第3集では、1集・2集で取り上げた郷土教材、並びに第3集で取り上げた開発教材を一覧表にまとめ、活用しやすい指導事例集を考えています。

3月末の完成を目指し、推進研究委員一同、次のような郷土教材の開発及びその授業実践に、現在取り組んでいる最中です。ご期待下さい。

伝説と昔話（うなぎ伝説と四谷、成就院と安産薬師等）、

今に伝わる平山の歴史（昭和の初めのデズニーシー！鮫陵源とそのなごり、いざ平山！平山季重他）

多摩川と交通（日野橋にかくされた秘密、渡船、甲武鉄道他）、

学校の歩みと地域（校舎や校名の変遷、記念碑と人々の思い、進む区画整理とこれから他）、

日野のまちの人口（町別人口密度、町名地番の変遷とその制度他）、

昭和初期の社会状況と日野五社の進出（六桜社からコニカミノルタ、日野の地域的特色他）、

戦時下の日野（家庭でできる戦力増強の具体事例他）、その他

郷土教材の宝庫 一周年記念誌



さて、郷土教材は子どもたちの生活している場の近くにあり大変身近な教材ですが、読み取る、調べるといった活動をするとき、子どもの力だけでは難しい現状もあります。

平山小学校では、130周年の記念に作られた副読本「ひらやま」を使った授業を各学年が展開しています。子どもたちを対象にしたわかりやすい文章・地図・ノートなどから構成されていて、自分で調べ、読み取る郷土教材として学習に大変有効に利用されています。また、高学年では、日野市生活課が市民向けに作成した「平山をさぐる 鮫陵源とその時代」、「平山歴史マップ」も併用して学習を行っています。

*「指導事例第2集別冊」（平成18年3月発行）には記念誌に載った郷土教材の一覧を載せています。

「日野市教育委員会主催研修会」から

研 修 部

本年度4月から10月までに行われた市教委主催研修会の中で、教育センターが世話をしました研修会の参加状況を紹介します。

研修会参加状況

研修Ⅰ 職層に応じた研修

1. 学校組織マネジメント研修Ⅰ（校長）

5月16日 25名

7月26日 18名

2. 学校組織マネジメント研修Ⅱ（副校長）

6月26日 23名

7月26日 22名

3. 学校組織マネジメント研修Ⅲ（主幹）

4月26日 30名

5月31日 29名

10月11日 32名

4. 生命尊重教育研修会

8月 3日 13名

8月 6日 13名

5. 国際理解教育研修会

8月20日 6名

8月24日 5名

6. 授業力アップ研修Ⅰ（2年3年次）

8月21日 64名

8月22日 64名

7. 人権教育理解推進委員会

10月11日 26名

8. 2年3年次教員マナー研修会

8月 1日 61名

9. 環境教育研修会

7月30日 午前11名

午後 9名

10. 情報安全教育研修会

5月25日 29名

10月30日 42名

11. 教育相談研修会

8月 6日 15名

8月 7日 19名

研修Ⅱ 教育課題研修

1. 専門研修全体会

8月 2日 午前の部 473名

午後の部 515名

2. 幼児教育研修会

5月16日 24名

6月27日 26名

9月26日 22名

10月24日 41名

3. 郷土教育研修会

7月27日 13名

「最近の新聞記事から」

一般教育相談部

最近の新聞記事は嫌なことが多いです。いじめに関すること、いじめを気にした自殺に関すること、メールやブログに関してのトラブル、出会い系サイトからの誘拐記事や家出、交通事故等々です。また、家族関係のねじれからか、虐待や親殺し、近親者への加害等、残酷な事件に発展した記事も目を引きまします。学校に関すること数多くあります。教育基本法が改正されたこと、特別支援教育が本格的に実施されたこと、校舎の耐震強度の問題、教員の体罰の問題等々であります。また、学力試験に関する結果の報道もされました。これらは関係の無いようにも見えますが、良く考えてみると何らかの共通するものが存在するようで気になります。それは「時代の変化と人間性の変化」ではなかろうかと思ひます。

戦後、間もない頃の小学生は教室で50人近くがすし詰め状態でした。教室の後ろの方は通することも出来ないほど机を並べてあり、教室の中では身動きが取れない程でした。教材はほとんど無く教科書中心の学習でした。しかし、昼休みの時間や放課後は近所に遊びに行き、暗くなるまで遊んでいました。時には、原っぱに落とし穴を作り、大人が誤って落ち、叱られたこともありましました。小高い丘があれば登り、汚れも構わず滑り降りましました。時には、小川にザリガニを捕りに行ったりもしましました。本当に自由な時間がありましました。友ともいざこざがあり、喧嘩もしましました。ガキ大将がいて理不尽な仲裁で仲直りもさせられましました。教室では小さくなっているが、近所ではガキ大将という姿は珍しくありませんでした。こんな子ども時代に他人との付き合い方、共存の仕方を知らず知らずに覚え、他人の痛さや思いやりの大切さが芽生えていましました。

高度経済成長といわれる時代があり、車、テレビ、洗濯機等の家電製品が世の中に氾濫し始めましました。土地開発は進み、遊ぶ原っぱに次々と家や工場が建ち、空気汚染も進みましました。その頃からだと思ひますが、学歴偏重主義が興り大学へ行くことこそ出世を約束し、何不自由ない生活が待っているかのような風潮が流れていましました。そのため、家の手伝いはもとより近所での遊びや喧嘩など無くなっていきましました。喧嘩をしていると野蛮と叱られ、痛さや加減の程度を忘れていきましました。しかし、まだ思いやりは家族の中に残っていたし、近所の助け合いもありましました。

その後、コンピュータが出現しましました。しかも、小型でパソコンといわれる物です。塾も盛んになりました。考えることをしないで、教えて貰うこと、知識偏重の社会となりました。クイズ社会です。知っているが応用が利きません。問題点は発見できないが問題を出されると見事に応えられます。いじめがあり、不登校は増え、親友は居なくなり、教室は孤独の集団となりつつあります。人間は考えるから、理性があり、仲間として心を共有できるから人間性があると思ひます。その人間性は忘れられ、残酷な事件が起きます。親は自分の子だけを抱え込みまします。大人は自分の利益のためには、多少の悪いことぐらいと思ひていまします。若者は、自分の思っていることが叶わぬ時は凶器を持てきてても良いと思ひえ、すぐに実行してしまいうという現在になってきましました。

教育相談現場でも、子どもや保護者の抱えている問題には、上述した現代の風潮が色濃く反映されていまします。「自分のことが分かって貰えない」「親として子のことを分かりたいけど分からない」といった訴えの中には、現代の様々な環境構造のひずみから来る寂しさが基底に流れていると思われまします。

新聞のコラムにありましました。「子どもに対し、過ぎた関与は子どもをゆっくり駄目にする。無償とか無限大とされる親の愛を賢く押さえるのは楽じゃない。はやる助け船を岸にくくりつけ、我が子の苦闘を見守る。親故の辛さだし、腕の見せどころでもあろう。」この「親」と言うところを教師とか指導者にも置き換えてみたいです。子どもの将来を考え、子どもに生きる力としてどうすればいいのかを考えさせられる言葉でありましました。時代は便利になり、楽になったと言えようが、将来必要となることは何か、他人への思いやりや真の愛情とは何かを家庭や学校生活の中で、今一度考えたいものです。

1. 健全育成担当の事業

「健全育成担当」は、市内小・中学校の児童、生徒の健全育成推進のため、各学校から生活指導・進路指導及び学校不適応児童・生徒等についての情報を収集し、指導上の資料の提供を行い、学校との連携に努めています。また、教職員や保護者との相談にのり、適正な生活指導、就学相談の援助にあたっています。

更に適応指導教室「わかば教室」の指導と一体になり、活動の支援を図っています。

(1) 健全育成推進に関わる事業

(ア) 生活指導上の実態把握と助言

- ・ 定例小・中学校生活指導主任研修会（年8回）に出席し、生活指導に関する各校の実態を知り、指導方針や課題等を把握し、可能な限りの助言・援助に努めている。

(イ) 学校不適応児童・生徒（長期欠席）の状況把握

- ・ 市内小・中学校の、月5日以上欠席した児童・生徒の欠席調査を毎月行い、出欠席の変化を把握し、一人ひとりの欠席原因を考察するとともに、学校復帰を目指し、今後の対応を考え、各校との連携を図っております。
- ・ 児童・生徒のより深い実態把握と学校での様子・取り組みを理解し、連携を強化するため小・中学校全校（26校）の学校訪問を年1回実施しています。
- ・ 教育委員会（学校課）、教育相談、適応指導教室（わかば教室）との連携を図り、児童・生徒の健全育成に励んでいます。

(2) 平成十八年度長期欠席調査の概要（女子）

(ア) 長期欠席者＜年間30日以上＞の欠席数＞

小学校 78名（32） 中学校 134名（55） 計212名（87）

(イ) 長期欠席者の中の、不登校児童・生徒数 計198名（81）

①完全不登校 ほとんど年間を通して登校していない児童・生徒

小学校 14名（8） 中学校 26名（10） 計40名（18）

②不登校 年間欠席数100日以上＞の児童・生徒数＜わかば教室通室者を含む＞

小学校 11名（6） 中学校 51名（19） 計62名（25）

③登校しぶり 年間欠席数30日以上100日未満の児童・生徒数

小学校 41名（12） 中学校 55名（26） 計96名（38）

日野市における不登校児童・生徒数は、平成16年度164名、平成17年度172名、平成18年度198名と増加しています。今年度（19年度）は減少に転じるよう市内各学校との連携を一層強めていきたいと考えています。

(3) 不登校の改善を図る・新たな不登校の発生を防ぐ

「わかば教室」から学校に復帰、又は数日通学を始めている児童・生徒がいる。また、登校しぶりだったが見違えるように楽しく「わかば教室」で過ごしている児童・生徒もいます。学期・学年の切れめは、不登校改善の大きな契機です。改善に向けた取り組み強化が大切です。また夏休み明けの9月は、新たな不登校発生の多い時期です。夏休み中の子どもとの関わりを強化する等新たな不登校の発生を防ぐ努力が欠かせません。

NO	図 書 名	編・著者名	出版社
1	日本の産業と地域再発見（上）（中）（下）	豊田 薫	地歴社
2	近代日本の転機	鳥海 靖	吉川弘文館
3	個に応じた指導に関する指導資料（小学校算数編）	文部科学省	教育出版
4	個に応じた指導に関する指導資料（中学校算数編）	文部科学省	教育出版
5	平等社会フィンランド 育む未来型学力	ヘイツキ・マキバー	明石書店
6	数学教育史 奈良・平安・江戸	和田義信	東洋館出版社
7	数学教育史	小倉金之助	岩波書店
8	近代日本の数学教育	佐藤英二	東京大学出版会
9	理科年表A 5机上版	国立天文台編	
10	外来生物事典	池田清彦	東京書籍
11	身近な自然を調べる	下野 洋	東洋館出版社
12	マッテイカの大気汚染 古代ギリシャローマの環境汚染		鳥影社
13	環境保護運動はどこか間違っている	槌田 敦	宝島社
14	世界と地球の困った現実（マンガで読む）	開発教育	明石書店
15	気付きを深める生活科授業の創造	内藤博愛	明治図書
16	小さな会社の大きな仕事 「地球に緑を」事業化したある中小企業の挑戦	宮崎林司	ゴマブックス
17	「リサイクルは資源の無駄づかい」に正しい生活	小林順一	講談社
18	体育 いっしょにのびる授業づくり	平川 譲	東洋館出版社
19	みんなが主役フラッグフットボール	後藤一彦	東洋館出版社
20	小学校英語活動実践の手引き	文部科学省	開隆堂
21	心理臨床大事典		培風館

日野市立教育センター

調査研究事業発表会

日野市の教育課題に対応するシンクタンクとしての役割を目指す3つの調査研究の成果の発表を以下のように行います。皆様、お揃いでどうぞお出かけください。

日 時 平成20年 2月26日(木) 14:30 ～ 16:30

場 所 日野市立教育センター 3階講堂